

第5学年4組 外国語科学習指導案

令和5年9月26日火曜日 第4限 5年4組教室

指導者

I. 単元名 「This is my dream day」

II. 単元の目標

- ・習慣的に行う動作や日課、頻度を表す言葉を知って、言うことができる。
(知識及び技能)
- ・自分の1日をどのように過ごしたいかを考えて、伝えることができる。
(思考力、判断力、表現力)
- ・相手にわかりやすく話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりする。
(学びに向かう力、人間性等)

III. 指導上の考察

1. 単元について

本単元においては習慣的に行う動作や日課、頻度を表す言葉について友達に伝えたり、互いに尋ね合ったりすること、友達に伝えることを狙いとしている。普段から行なっている動作や日課の表現について学ぶため、この単元は児童にとっても学びやすい単元だと考える。なぜなら、本単元で学習する表現は普段の日常から家庭で行う動作であるため(wake up や eat breakfast etc.) 家庭でも習った表現を確認できるからである。授業内での復習だけでなく、家庭でも復習を行えるような単元であるため、表現の定着がよりスムーズに行うことが期待出来る単元になっている。単元全体を通しては第3・4時では「日課や習慣的に行う動作の表現を知り、言うことが出来る」という知識及び技能に関する狙いが設定した。第5時では HEF を含めた2人の先生の日を聞き、それぞれの違いを理解し、前2時間で学習した表現を正確に聞き取る活動を設定した。また、頻度を表す言葉についても第5時で取り扱い、児童に表現を覚えさせた。第6・7時では第3～5時で学習した表現を使用して自分の一日を作成し、文章単位で英語を発表する活動を設けた。第6時、7時では主に「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう人間性等」の目標が達成されると考える。第3～5時で学習した表現が、第6・7時で行う発表活動の準備、発表活動で重要になると考える。

2. 児童について

本学級の児童は積極的に発言を行う児童と、そうでない児童との差は大きいと感じる。指導者の発問に毎回のように挙手をする児童も一定数在籍する一方、挙手の回数が少ない児童も在籍している。挙手が少ない児童は外国語だけでなくほかの教科の時間においてもそのような様子がうかがえるため、机間指導などを通してそのような児童に対応する必要

がある。外国語の能力に関しても差がみられる。指導者の指示をすぐに理解し活動に積極的に取り組むことができる児童とそうでない児童の差がある。また、アルファベットで書かれているクラスメイトの名前を読むことがない児童も在籍している。しかし、英語で活動を行う際は日本語の説明の中に少し取り入れると、児童は理解し積極的に取り組んでいる。このことから、英語の活動を行う際は、日本語での説明を多く取り入れることで児童は問題なく活動に取り組むことができると考える。

3. 指導について

本単元では児童が習慣的に行う動作や日課、頻度を表す表現を知って、自分の一日をどのように過ごしたいか考え、友達に伝える活動に取り組む。この単元では知的で楽しい授業を行い、児童が自然と表現を覚えていくということを、指導を行う上で大切にする。そのためには児童にその表現にたくさん触れさせることが大切だと考えた。本単元で児童が習う表現は、英語で1日の日記等を書く上で非常に重要な単元になると考える。本単元でも触れられている頻度を表す言葉を習得すると日々の日課をより詳しく説明することができ、表現の強弱を表すことが出来るため、英語の文章を作成する際に説得力が増す文章を構成することが可能である。

この単元を通して児童は楽しく活動しながら日課や習慣的に行う動作の表現、頻度を表す表現を暗記したうえで、友達に自分の一日を伝える。また、暗記した表現を使ってコミュニケーションを行うことの楽しさや英語でコミュニケーションをとることが出来たときの達成感というものを児童が味わうような単元であると考え。第3時・4時においてはかるた活動を取り入れた。「かるた」で表現を覚えてもらう理由としては、目で見て、耳で聞き、声に出して、頭や体も動かし、最終的には感情も動かしながら児童には英語を学習してほしいという思いがあるからだ。また、札に描かれている絵を英語で聞き、判断することで英語が苦手な児童も何か一つの単語からその表現を連想することができ、最終的に表現の暗記につながると考えたからである。第5時では頻度を表す4つの言葉

「always」「usually」「sometimes」「never」を児童が学習し、自分の一日をより詳しく説明できるようにした。第6時には、第3・4時のかるた活動を通して学習した知識、第5時で学習した頻度を表す言葉を使用して自分の一日を英語の文章で表し、読めるよう練習を行った。第7時（本時）でグループ内での発表活動を行う。この発表活動を行う意図は、第3時～第5時にかけて学んだ表現をアウトプットすることで表現の使い方や、大まかな文の構成を児童が理解するためである。また、友達に発表することで自分が学んだ表現を使用してコミュニケーション活動を行うことの楽しさを児童が感じる事が出来ると思う。

IV. 指導計画

時	目標	主な活動
第3時	日常の日課を表す表現を知	Dairy routine card の絵を使って日

(展開 2)	り、言うことができるようになる。	課を表す表現を知る。かるたをす る。
第 4 時 (展開 3)	日常の日課を表す表現を知 り、言うことができるように なる。	Dairy routine card の絵を使って日 課を表す表現を知る。かるたをす る。
第 5 時 (展開 4)	先生の一日を聞いて、違いが 分かるようになる。頻度を表 す言葉を知る。	2 人の先生の一日を聞いて、それ ぞれの違いを理解する。頻度を表 す言葉を知る。
第 6 時 (展開 5)	自分の一日を英語でつくる。 文章を読めるようになる。	自分の 1 日を英語で表せるように なる。文章を読むことができるよ うに練習する。
第 7 時 (まとめ) (特練本時)	クラスメイトに自分の一日を 英語で詳しく説明することが できる。	クラスメイトに自分の一日を英語 で発表する。

V. 本時の目標

クラスメイトに自分の一日を英語で詳しく説明することが出来る。

VI. 本時の展開

構成	学習活動及び子供の反応等	指導上の留意点
導入	簡単な挨拶を教員と児童で行う。 T: Good morning, everyone. S: Good morning, Mr. Hoshimitsu. T: How are you today? S: I'm ~. T: What date is it today? S: It's September 26th. T: What the day today? S: It's Tuesday. S: What did you have for dinner yesterday? S: I ate ~ yesterday. .. S: What time did you get up? S: I get up at ~.	'How are you today?' 'I'm ~' の 会話はクラスメイトの何人と会話を できたか競う活動を行う。 最後の二つのやり取りは第 3 時、 第 4 時で学習した表現を取り入れ た (eat dinner, get up)。 最後の 2 つのやり取りはペアで行 う。

展開	前回の復習を行う。	
	めあて クラスメイトと自分の一日を詳しく説明しよう。 自分の一日の発表原稿の練習を各自行う。 前回から使用しているプリントに書かれている原稿を全員で音読する。 発表する上で話す側が大切にすること、聞く側が大切にすることの説明を指導者から受ける。 班に分かれて発表活動に取り掛かる。各自2分の持ち時間が与えられ、時間が余った場合は発表に関する質問をする。	机間指導を行い、困っている児童がいたら指導する。 自分で考えた部分は全員で音読する際も自分のことを言う。 この際、後に配付する振り返りプリントの内容にそって指導を行う。 机間指導を行い、活動に困っている班があったら指導者も活動に参加する。
まとめ	振り返りシートを配られたら、各自振り返りに入る。 最後に単元を振り返る。	この活動に児童が困らないためにも発表活動前の読み手、聞き手が注意することの指導をプリントに沿って行う。 どのようなことを学習したのかを児童から聞き、それが今後どのように活かされるのかを簡単に説明する。

VII.板書計画

September 26th Tuesday

めあて

クラスメイトと自分の一日を英語で表現し、共有しよう。

What did you have for dinner yesterday?

I had ~ for dinner yesterday.

What time do you get up this morning?

I get up at ~.

発表活動

・1人2分

・余ったら質問タイム

・話し手

大きな声で聴きやすいスピード

アイコンタクトを忘れずに

・聞き手

相手の目を見て反応する

時間が余った場合は質問を積極的に